

平成27年度 病害虫発生予察注意報 第1号

平成27年6月3日
栃木県農業環境指導センター

作物名 : 水稻

病害虫名 : イネ縞葉枯病 (ヒメトビウンカ媒介)

- 1 発生予想 発生量 多い
- 2 発生地域 県中南地域
- 3 注意報発表の根拠

平成27年5月中旬～下旬にヒメトビウンカ第1世代幼虫を採集し、イネ縞葉枯ウイルスの保毒状況を調査した。その結果、保毒虫率は県中部10.0%、県南部8.5%で、イネ縞葉枯病の発生が多かった昨年と同様に高い状態にあった(表1)。特に、県南部では、保毒虫率が20%を超える地点も認められた。

表1 ヒメトビウンカ第1世代幼虫のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率 (%)

地域名	H23	H24	H25	H26	H27
県北部	0.3	1.4	0.9	1.4	3.8
県中部	1.1	1.8	3.6	10.6	10.0
県南部	3.4	2.6	6.7	9.2	8.5
県平均	2.3	2.3	5.3	8.3	8.2



ゆうれい症状



穂の出すくみ

写真 イネ縞葉枯病の病徴

4 防除対策

(1) 移植前の対策：普通植栽培

普通植栽培ではチョウ目害虫の被害も懸念されるため、ウンカ類・チョウ目害虫の両方に登録のある箱施用剤を使用する（表2）。

表2 稲（箱育苗）のウンカ類・チョウ目害虫に登録のある主な薬剤
（平成27年5月28日現在）

農薬名	希釈倍数 又は使用量	使用時期	本剤の 使用回数	成分
●殺虫剤				
ワンリードSP箱粒剤 〈ウンカ類, イネトムシ, ニカメイチュウ, フタオビコヤカ〉	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当たり50g	は種前	1回	クロチアニジン
		は種時(覆土前)～移植当日		スピネトラム
フェルテラチェス箱粒剤 〈ウンカ類, ニカメイチュウ, コブノメイガ, フタオビコヤカ, イネトムシ〉		移植3日前～移植当日	1回	ピメトロジン
				クロラントラニリプロール
●殺虫殺菌剤				
ルーチンアドスピノ箱粒剤 〈ウンカ類, イネトムシ, フタオビコヤカ, ニカメイチュウ, コブノメイガ〉	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当たり50g	は種前	1回	イミダクロプロリド
		は種時(覆土前)～移植当日		スピノサド
エパーゴルワイド箱粒剤 〈ウンカ類, イネトムシ, フタオビコヤカ, ニカメイチュウ, コブノメイガ〉		は種前	1回	イソチアニル
		は種時(覆土前)～移植当日		イミダクロプロリド
				クロラントラニリプロール
				イソチアニル
				ペンフルフェン

注1: はウンカ類に有効な殺虫成分 はチョウ目害虫に有効な殺虫成分

注2: 対象害虫はウンカ類・チョウ目のみ抜粋

(2) 本田での対策：早植・普通植栽培

各地域でのヒメトビウカ類の発生状況に合わせ、地域ぐるみで本田での薬剤防除を行う。なお、箱施用剤を使用した場合は、同一系統薬剤の連用を避ける（表3）。

また、抵抗性品種もウイルスの獲得源になる可能性があるため、罹病性品種と同様に防除する。

表3 稲のウンカ類に登録のある主な薬剤（平成27年5月28日現在）

農薬名	希釈倍数 又は使用量	使用時期	本剤の 使用回数	成分
●粒剤				
スタークル豆つぶ	250～500g/10a	収穫7日前まで	3回以内	ジノテフラン
ダントツ粒剤	3kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	クロチアニジン
●液剤				
スタークル液剤10	1000倍	収穫7日前まで	3回以内	ジノテフラン
スタークルメイト液剤10				
ダントツ水溶剤	4000倍	収穫7日前まで	3回以内	クロチアニジン
MR. ジョーカーEW	2000倍	収穫14日前まで	2回以内	シラフルオフエン
トレボンEW	1000倍	収穫14日前まで	3回以内	エトフェンブロックス

詳細は、農業環境指導センター（TEL028-626-3086）までお問い合わせください。

病虫害情報発表のお知らせは「農政部ツイッター(@tochigi_nousei)」、農業環境指導センターホームページ（<http://www.jpnpn.ne.jp/tochigi/index.html>）でもご覧になれます。